

渟江小学校 外国語活動・外国語研究通

第7号
令和4年12月

今年度第7回目となる外国語活動・外国語の研究授業を 佐藤 優佳 教諭が行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため体育館で行いました。協議会では、相手に伝える必然性や絵本の読み聞かせについて活発な意見交流を行いました。指導・講評では、文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生よりご指導いただき、研究を深めました。

研究主題

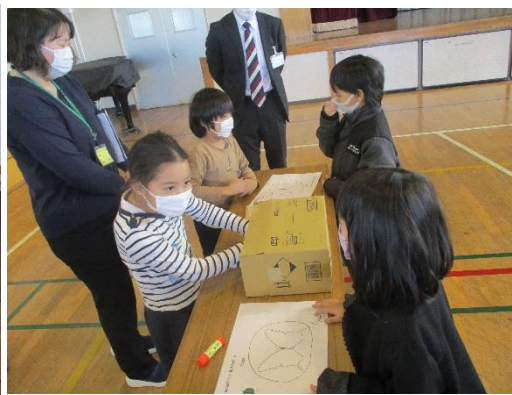
関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～ 思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：1年2組 担任 佐藤 優佳 教諭

単元名：果物を英語で言ってみよう

指導講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生より



〈研究経過報告〉

低学年分科会では、英語の歌や絵本を通して、「英語のリズムや音声に慣れ親しむこと」「外国語の表現を積極的に使い楽しく取り組むこと」「友達と意見や考えを伝え合うこと」をねらいとして、以下の3つの視点で授業の工夫を行った。

①楽しみながら主体的に英語を発話するための工夫

絵本を読みながら児童も部分的に一緒に発話させる。それにより、自然に外国語を話し、より慣れ親しむことができるようにした。また、歌も取り入れて楽しく語彙や表現に慣れ親しむようにした。さらに、お客側から果物カードを見えないようにしたことで欲しい果物を相手に伝える必然性をもたせた活動が楽しみながらできた。

②児童が目的意識をもって関わり合ったり活動したりする環境作りの工夫

各単元や授業において、児童に活動の目的を明確に理解させるとともに相手意識をもたせて活動させることで、児童一人一人がより積極的に活動に取り組むことができると考え、取り組んだ。

さらに、外国語でのやりとりを通じて、思いが伝わった時の嬉しさを児童に実感させたい。そのために、児童がお店屋さんとお客さんに分かれ、自分の欲しい果物を伝える活動を設定した。お店役の児童に、お客さん役の児童が欲しい果物を伝え、その果物が手に入る経験を重ねることで、「できた。」「伝わった。」という実感をもたせ、コミュニケーションの楽しさや嬉しさを実感させた。

③中間指導の充実

やりとりで児童が言いたいことを友達に伝えるために、言いたいけど言えなかった表現を全体で共有し一緒に考える時間を設定した。中間指導を通して、児童のより良い表現や言い方を取り上げ、他の児童のモデルになるように工夫をした。

〈授業者自評〉

・児童は毎回楽しんで活動に取り組んでいて、本時も楽しんで活動したのでよかった。授業に取り組むに当たって、もっと余裕をもたないといけないと感じた。歌う予定だったフルーツリレーを忘れてしまったり、時間配分を間違えてしまったりなど自分自身に余裕がなかった。

・お店に来て欲しい児童が言った“open”を中間指導で取り上げ、共通理解することができた。お店側は「言いたいけれど、何を言えばいいかわからない」が解決され、活動がより一層活発になった。

〈研究協議会〉

研究の視点について

視点1 歌や絵本を通して、児童が外国語や表現に慣れ親しんでいたか

質問 児童から「何回も見た」という声が出ていたが何回読んだのか。また児童が飽きないような工夫はあったのか。
⇒「A Beautiful Butterfly」は合計で3回読んだ。前回、読んだ「A HUNGRY CATERPILLAR」と混合していたと思う。工夫としては、1回目は教員同士で読み、2回目以降は児童も交えながら読んだり、動きを入れたりしながら読んだ。

視点2 活動に楽しんで取り組み、主体的にやりとりをしようとしているか

- ・イモムシや蝶々など児童が楽しんで取り組むための仕掛けがあったので、全員が意欲的だった。
- ・お店にお客さんが来ない時、「中間指導」で扱った“open”を活用している姿はとてすばらしかった。
- ・お店側やお客側が言われて嬉しい言葉を中間指導で指導しても良かったのではないかな。

質問 教師同士のデモンストレーションの方法をもっと工夫できたのではないかな。児童は果物カードの貼る位置を理解していないと感じた。

⇒事前授業では貼る位置を拡大器を使って伝えていたが、画面だけを見てやるべきことを聞いていないと感じたので今回は使わなかった。また、日本語を交えて伝えても良かったと感じた。確かに理解できていない児童が多くなってしまった。児童目線ではなく、自分のことで精一杯になってしまった。

⇒**直山先生** まず児童と先生の距離が遠かった。体育館ということもあるが、児童に理解させる時は「見えやすい」「聞きやすい」を大切にしないといけない。

質問 「アオムシ君に食べさせたい」と「beautiful butterflyを作ろう」が繋がっているのか。

⇒アオムシ君は国語の授業で指導して以降、児童が愛着をもっている。また、去年の外国語の授業で行った「果物カードを集めよう」と集めることが目的になってしまっていたので、今回は「集める」ではなく「愛着のあるアオムシ君に色んなフルーツを食べさせて自分だけのbeautiful butterflyを作る」ということを意識させて活動を行わせた。

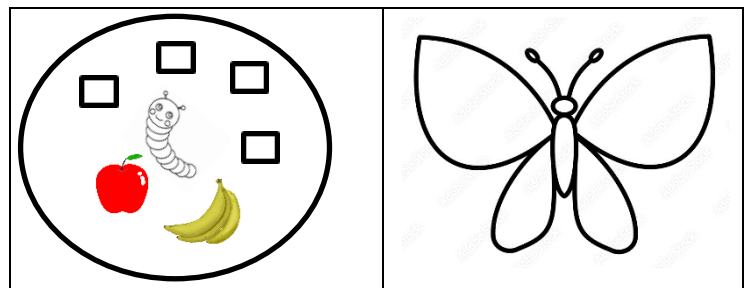
⇒**直山先生** たしかに今日のワークシートだと「アオムシ君に食べさせたい」と「beautiful butterflyを作ろう」の繋がりがわかりづらい。また、果物カードは4枚と決める必要性はない。多くコミュニケーションを取らせて良いと思う。

※直山先生からのアドバイスで作成したワークシート

表 アオムシ君が食べた果物 **裏** beautiful butterfly



改善前



改善後

〈指導・講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生〉

佐藤先生の成長にとっても驚いた。去年に比べ、授業が良い方向変わった。去年は強引に授業を進めていたが、今回は児童を褒めながら授業を進めることができていた。浏江小学校と継続して携わると先生達の変化を感じることができるのでとても感心させられる。

可視化された授業

- ・児童が言ったり聞いたりしたことが形になって出てくるので、伝わっているか伝わっていないのがはっきり分かる。
- ・伝わっていると児童は成就感を味わうことができる。

伝える必然性 聞く必然性

・果物カードをお客側から見せないようにしたことで欲しい果物を「伝える必然性」が生まれた。(果物カードが見えてしまうと、指差しなどで分かってしまうので「伝える必然性」「聞く必然性」が生まれにくい)

・箱で隠したことで言ったり聞いたりする活動が活発になった。

絵本の読み聞かせ

- ・今日は体育館ということもあったが、先生と児童の距離が遠かった。
- ・絵本を読むときは児童を集めて座らせる。また、先生も読むときは児童と同じ目線になって読むことが大切である。
- ・絵本を読むときは「抑揚をつける」「大きめに読む」「セリフを変化させる・付け加える」ことが大切である。児童は絵本のストーリーを知っているのだから、引き込む工夫をしないといけない。

予測しシミュレーションをする

- ・予測できることはしっかりシミュレーションしておく。
- ・特に低学年は予測していないことが起こりやすい。今回の場合、4枚以上の果物カードを集めることになっていたが「全部バナナにしたい」という予測していないことが起きた。その時の対応もシミュレーションしておく必要がある。
- ・予測しシミュレーションすることは外国語活動・外国語の授業に限ったことではない。全教科に共通している。

